

みょうが品種・系統の早晩性と加工用有望系統の選定							
<p>[要約] 各地から収集したみょうが品種・系統の早晩性による分類を花蕾の月別収穫割合によって行った。また、加工用の有望系統として早生では「<u>晩生2号</u>」、「<u>陣田早生</u>」、中生では「<u>諏訪1号</u>」、晩生では「<u>大分九重系</u>」、「<u>宮崎小林系</u>」を選定した。</p>							
八女分場・中山間地作物研究室					連絡先	0943-42-0292	
部会名	園芸	専門	育種	対象	花菜類	分類	指導

[背景・ねらい]

中山間地域で栽培されるみょうがの高付加価値化を図るため、みょうがの加工及び貯蔵技術を確立する必要があるが、みょうがの品種系統数は多く、品種系統の特性及び収量性は明らかにされていない。そのため、各地に栽培されている品種系統の比較栽培を行うとともにその特性を把握し、加工及び貯蔵に適した品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

①各地で栽培されている品種系統の早晩性を花蕾の月別収穫割合によって以下のように分類した(表1)。

- ・早生品種・系統：晩生2号、長久手在来、埼玉在来、小倉系1号、諏訪2号、諏訪3号、陣田早生
- ・中生品種・系統：犀川2号、諏訪1号、早生2号、若宮在来、野田晩生
- ・晩生品種・系統：光安系、大分九重系、宮崎小林系

②みょうがの加工用品種としてはアントシアン含量が高い系統が適し、アントシアン含量及び収量性を考慮すると早生では晩生2号、陣田早生、中生では諏訪1号、晩生では大分九重系、宮崎小林系が優れた(表2)。

[成果の活用面・留意点]

①用途別品種選定の資料とする。

[具体的データ]

表1 みょうが花蕾の月別収穫割合と早晩性 (平成4年)

品種・系統名	収穫総花蕾数 (個/6m ²)	月別収穫割合 (%)				早晩性
		7月	8月	9月	10月	
晩生2号	331	68	2	19	11	早生
長久手在来	162	68	10	19	4	早生
埼玉在来	262	67	3	16	15	早生
小倉系1号	271	57	7	25	11	早生
諏訪2号	173	56	5	25	14	早生
諏訪3号	371	47	27	23	3	早生
陣田早生	557	48	27	21	3	早生
犀川2号	241	54	1	34	11	中生
諏訪1号	467	48	13	27	13	中生
早生2号	285	48	2	29	21	中生
若宮在来	229	32	9	46	14	中生
野田晩生	413	42	19	35	4	中生
光安系	107	21	1	47	31	晩生
大分九重系	347	3	1	87	10	晩生
宮崎小林系	524	5	2	80	13	晩生

表2 みょうが有望系統の収量・品質 (平成3～4年)

品種系統名	早晩性	収量		収穫花蕾数		紅色花蕾数割合	
		H3	H4	H3	H4	H4	H5
		kg/10a		個/10a		%	
晩生2号	早生	863	(493)	134800	(55200)	11.7	23.4
陣田早生	早生	890	913	122000	92800	31.6	27.0
諏訪1号	中生	811	797	112500	77800	26.2	22.5
大分九重系	晩生	430	425	67300	57800	28.3	35.2
宮崎小林系	晩生	(336)	693	(49000)	87300	30.6	30.5

注) ①晩生2号、大分九重系、宮崎小林系は平成元年12月、陣田早生、諏訪1号は平成3年3月に定植した。

②()で示した年次の収量、花蕾数は病害の影響による。

[その他]

研究課題名：地域資源を活用した中山間地作物の安定栽培技術の確立

予算区分：国庫(中山間)

研究期間：平成5年度(平成3～5年)

研究担当者：執行明久、大賀康之、杉山喜直

発表論文等：平成3～5年度 福岡県農業総合試験場八女分場 試験成績書